

校訓	自分を育て 自分を生かす 社会を明るく	令和2年度 学校だより 「天の子」 第22号	発行日	令和3年3月25日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自分の志・夢で自ら責任をもつ行動する態度を育てる～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 前田 徳三

【随処作主】

校長室に「随処作主」という大きな額が掛けられています。これは、「随処作主 立処皆真」（随処に主となれば、立つところ皆、真なり）であり、臨済宗の開祖である臨済義玄禅師の言葉です。禅宗であるから様々な解釈ができますが、「今いるところで全力を尽くせば、道は開ける」という意味です。一人ひとりには微力でも、それぞれが持ち場で力を尽くせば、大きなことが達成できるということです。同じような意味で、教育者で宗教家の渡辺和子さんの著書に「置かれた場所で咲きなさい」という言葉があります。4月から進級するみなさんも「随処に主」となり、「置かれた場所で咲く」ようになってもらいたいと願います。一人ひとりが与えられた境遇で毎日を精一杯生きていけば、それぞれの道が開かれると信じています。



【卒業式式辞】 卒業式の式辞を抜粋して紹介します。

創立五十周年で植樹した中庭の河津桜が綺麗に咲き誇り、池の鯉が元気に泳ぎ回り、柔かな日差しと温かく吹く風に春の訪れを感じる・・・（中略）

想い起こせば3年前、入学式の誓いの言葉で、「新しい中学校生活に不安な気持ちを抱きながら、力を合わせて乗り越えていきます。」と力強く語ってくれました。それからみなさんは、素直で、心温かく大きく逞しく、成長しました。今や、みなさんは私たちの宝です。

一方、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年でした。（中略）コロナ禍は、いつ終息するのかわかりません。今後、新たな感染症や地震、台風などの自然災害等で大きな被害に遭うかもしれません。また、様々な試練や困難に出会うかもしれません。でも、そのような非常事態に陥ったときや、悩んだとき、行き詰まったとき、まずは、できることを実行してください。できることをしているうちに、次に何をすべきか、どうしたらよいのかが徐々に明らかになります。そして、次のステップに繋がり、明日への目標や希望が見いだされます。まずは、動く、実践することだと思います。努力していく中で希望が生まれ、努力していく中で目標が作られてきます。

人は大きな課題や困難にぶつかったり、対立が生じたりした時、人の行動は2通りに分かれます。一つは、「壁」をつくって諦めたり、逃げ出したりする人と、もう一つは、「橋」をつくってどうにか解決策を考えて、乗り越えていこうとする人です。

「躓いた石も踏み石になる」という諺があります。天中のみなさんなら、様々な困難をきっと乗り越えていけます。みなさんには無限の可能性があり、自信を持って様々な課題や困難を乗り越えてくれると信じています。（中略）

どんなときも、情熱や希望をもって自分の夢に向かってください。夢は、自分の能力と意欲を引き出し、様々な困難や苦難を乗り越えていきます。

吉田松陰は、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」と残されています。夢や希望は、他人から与えられるものではなく、自分がつくるものです。

本校の学校教育目標である「夢と誇り」を持ち、これからも、本校で培ったものを忘れず、自信をもって歩んでください。みなさんの前途に幸多からんことを心からお祈りいたします。（中略）

令和3年3月11日 伊丹市立天王寺川中学校長 前田 徳三



【卒業生のことば】

3月11日、3年生は天王寺川中学校を立派に卒業しました。みなさんは、先輩たちから多くのことを学び、たくさんの思い出があると思います。卒業式に参列できなかったため、「卒業生のことば」を紹介します。3年生が国語の時間に書いた文章から作成したものです。吉田さん、清水君、藤原さん、南さんが代表で読んでくれ、保護者や先生たちはとても感動しました。先輩たちが築いた伝統を受け継いで、天中がさらに発展できるよう頑張っていきましょう。



さらさらと私たちを見守ってくれた天王寺川に、今、四度目の春が巡ってこようとしています。川のほとりや校庭の小さな命も、新しい季節に向けて旅立ちの準備をしているようです。卒業は、ゴールではなく新たなスタート地点に過ぎません。これからの長い人生を歩んでいくために、今日それぞれが、自分の道を歩き始めます。

今年は新型コロナウイルス感染症がはやり、体育大会や合唱コンクールなどの行事が中止になったり縮小されたりして、物足りなく感じました。みんなで修学旅行にも行ってみたいかったです、中止となってしまい、悔しい思いでいっぱいです。でも、その分、日常生活や行事、部活動を通してとても絆が深まったように感じました。天王寺川中学校で何気なく過ごした日々はとても尊かった。

緊急事態と呼ばれる日々の中で、「あたりまえ」の生活をおくることができたのは、今日という日を迎えることができたのは、たくさんの人に支えていただいたおかげだと、改めて実感します。

家族とほとんど変わらないくらい大切な、友達。私はとても人見知りで、友達を作るのがあまり得意でないのに友達になってくれて、毎日一緒にいて、他愛もない話をして、楽しませてくれた。嫌なことも嬉しいことも、一番に話すのはあなたでした。相談にずっと寄り添って聞いてくれました。部活では時にライバルとして、練習の時に競い合い、お互いを高め合いました。そのおかげで、苦しい練習も最後まで手を抜かずできたのかもしれません。切磋琢磨しながら一つの目標に向かって全力を尽くしてきたことは、私の中で忘れられない一生の思い出となりました。最高のメンバーに出会えて良かった。離れていても、心はつながっています。いつも変わらず接してくれてありがとう。長い人生、違う環境で頑張ってもずっとずっと友達だよ。

時には厳しく、時には優しく接して下さった、先生。私たちは迷惑をかけてばかりいましたが、いつも教え導き、正しいところに戻してくださいました。礼儀やマナー、人として大切なことを教えてくださいました。「クラスや学年は、生徒である君たちが作るものだ。」と言われたことが心に残っています。その言葉のおかげで、自分から行動し、よりよいクラスや学年にしたいと考えることができました。普段当たり前のように受けている授業も、色々と考えてくださっているんだなあと思うと、一回一回大切にしようと思うようになりました。分からないことは丁寧に、分かるまで教えてくださいましたおかげで、分かることが増えました。先生方で協力していろいろな思い出を作ってくださいました。クラスを楽しませてくれたり、行事に熱心に取り組んだりする先生は最高でした。先生と生徒が一緒になって盛り上がり、とても楽しかったです。これまで私たちの成長を見守ってくださり、本当にありがとうございました。これからも、先生方の誇りになれるように頑張っていきます。

いつも私を信じてくれた、家族。どんなときも、あなたならできると信じてくれたおかげでここまでこれました。部活動の試合があるたびに、お弁当を作ってくれて、遠いところの試合でも応援に来てくれて、送り迎えをしてくれてありがとう。困ったことがあったら、いつでも優しく相談に乗ってくれました。「どんなことがあっても味方だよ」と言ってくれたとき、本当に嬉しかったよ。家族みんなで笑っている時間が何よりも一番楽しいです。毎日おいしいご飯を作ってくれてありがとう。朝が弱い私を起こしてくれてありがとう。仕事を頑張る姿は、ぼくの憧れでした。忙しい中で、進路のことを一緒に考えてくれてありがとう。行きたい高校へ行くのを応援してくれて、私の気持ちを尊重してくれて、ありがとう。自分に甘くなってしまっているとき、厳しい言葉をかけてくれてありがとう。うるさいなって思ったこともあったけれど、そのとき怒ってくれなかったら、きっと私はずっと成長しなかった。生まれてから今までたくさん迷惑をかけたし、ひどい言葉もたくさん言ってしまうてごめんなさい。それでも世話を焼いてくれてありがとう。生んでくれて、ここまで大切に育ててくれてありがとう。これからはしっかり頑張って、親孝行をしたい。期待に応えられるように頑張るよ。

精一杯努力を積み重ねれば、きっと夢に近づけると思う。未来の選択肢を増やせるように頑張りたい。思い描いている自分の理想に近づくために。夢を見つけるために、中学校ではできなかったこと、挑戦したいことを全部したい。中学校の時よりも、日々の勉強や部活動に専念して、文武両道ができるよう精一杯頑張りたい。人のために何かをできる人になる。「ありがとう」と言われ、笑顔がたくさん見られる仕事がしたい。自分らしさを忘れず、自分の意思で人生を作っていきたい。どのような社会でも強く生きていけるような人になりたい。

天王寺川中学校でのあふれんばかりの思い出と、私たちを愛し、育ててくれたすべての人々への感謝の気持ちを胸に、仲間と思いをともにしながら、私たちは、これからの未来が輝くものであるように、一歩ずつ、一歩ずつ、笑顔でそれぞれの道を力強く歩んでいきます。